

議会だより

さんのへ

第194号 (令和4年9月議会号)

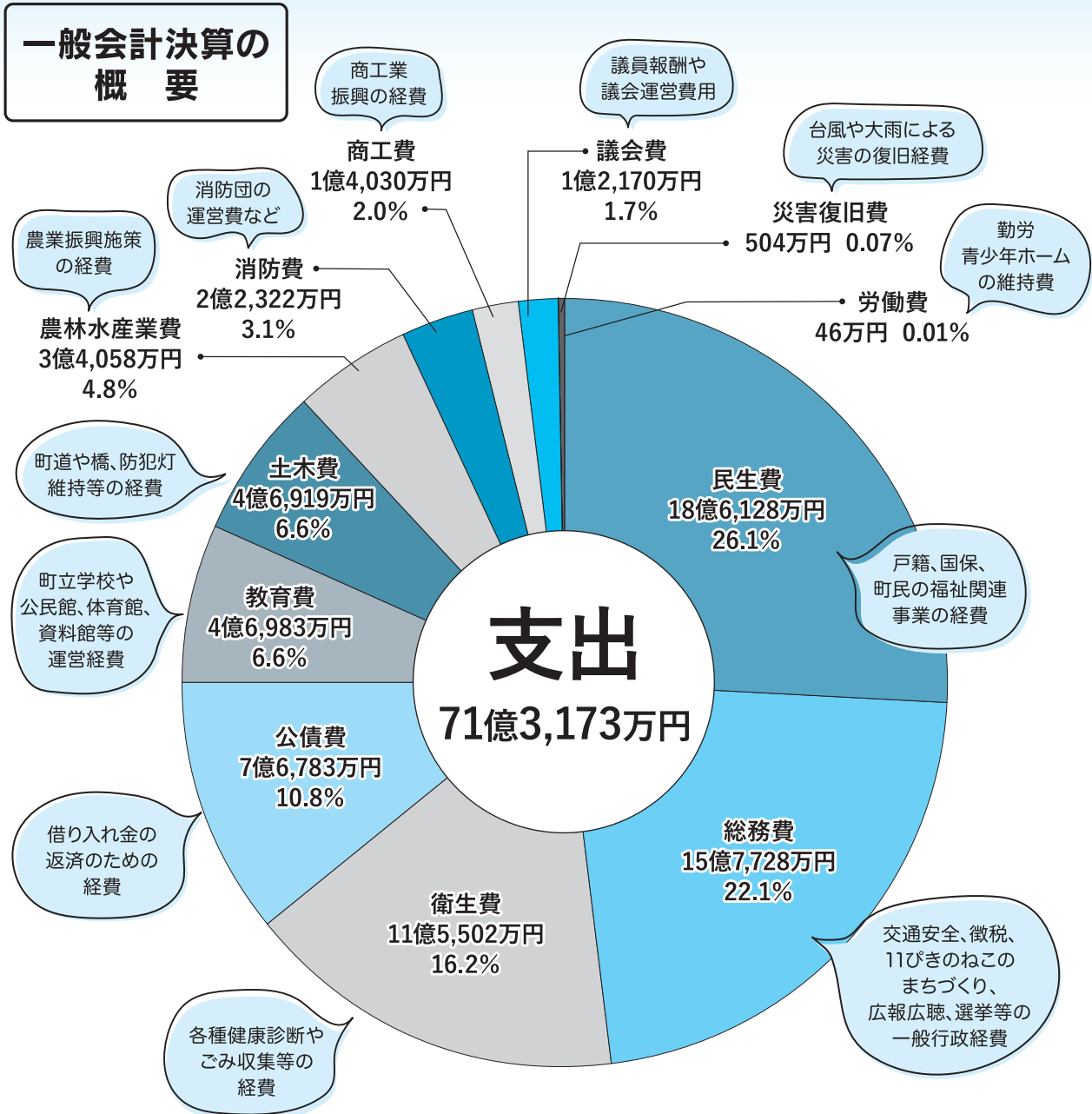
P2	決算特別委員会
P4	議決結果一覧
P5	議案審議
P6	一般質問(7議員)
P13	議会活動レポート
P14	研修・視察レポート
P16	秋まつり・12月議会予定・編集後記

六日町町内会館での「いきいき百歳体操」のひとつコマ



～令和3年度決算を認定しました～

町のお金はどう使われたのか？



歳入74億3,334万円 - 歳出71億3,173万円 = 3億0,161万円の黒字

特別会計決算額			
会計名	歳入	歳出	差引
学校給食共同調理場	3,508万円	3,485万円	23万円
簡易水道事業	5,374万円	5,094万円	280万円
下水道事業	2億1,784万円	2億543万円	1,241万円
後期高齢者医療	1億4,280万円	1億4,136万円	144万円
介護保険	17億8,801万円	17億1,387万円	7,414万円
国民健康保険	13億5,278万円	13億2,052万円	3,226万円
三戸中央病院(収益的収入・支出)	18億3,226万円	17億4,765万円	8,461万円

令和3年度決算特別委員会

私たちはココを チエックしました。



主な質疑

一般会計

歳入

ふるさと納税寄付額減
額の理由は？

Q 澤田道憲委員

ふるさと納税寄付額が令和2年度決算の3億9300万円から2億5644万円と大きく減少しているが、その理由は。

A まちづくり推進課長

返礼品の主力であるサンふじが、春先の霜害によって贈答用規格の商品が少なくなり、募案件数の調整を行ったため、大きく減少したものの。

コワーキングスペース
利用者に変化は？

Q 栗谷川柳子委員

無料期間終了後、コワーキングスペースの利用者属性や、利用率に変化はあったのか。

A まちづくり推進課長

属性はあまり変わらないうが、有料になってからは高校生の利用が多く、テスト期間などに2〜3時間利用しているようである。一日で100円と安いこと、コンビニや駐車場もあり、利用者も、送迎する親にとっても使いやすいためと思われる。

歳出

飲食店ポータルサイト
の更新は？

Q 山田将之委員

ポータルサイトは当初のテイクアウトのネット注文システムを、町の飲食店紹介のページに変更したもののだが、更新されていないように見える。活用されているのか。

A まちづくり推進課長

しばらく更新されていないが、今後の更新予定はある。なお、令和3年度のページビューは8、598件であった。

大雨災害でのドローン
利用は？

Q 澤田道憲委員

ドローンを3機購入し、免許取得者も3人であるが、3人に限定するのか、また大雨災害時には利用したのか。

A 防災機器管理室長

3人に限定したのではなく、令和4年度も何名か取得予定である。大雨時には使用しなかったが、その後の土砂崩れの現場での現場検証に利用した。

消防団の備品購入費な
ぜ余る？

Q 佐々木和志委員

消防団の備品購入費から不用額が出ているが、各分団の要求に100%答えた結果、不用額となったのか。

A 防災機器管理室長

毎年度各分団からの要望をいただき、それに配慮しているが、大きな備品等、要望に応えられない、または検討を要するものもあり、買うことができず不用額となったもの。

再質問

高額な備品といっても、

各分団が活動上必要性を持って要望しているものであるから、2年、3年と時間がかかってもいいので答える対応をしなければ、要望してもいつまでもそろわないという状況が続くのではないか。各分団と話合っ、本当に必要なものが何なのか、精査するべきである。

A 防災機器管理室長

分団と要望したものにつ



旧町民グラウンドに完成した三戸警察署

いて、町で購入できるか等検討したり、新しい備品の情報等も提供していきたい。
警察署の下水道工事費大幅減額はなぜ？

Q 竹原義人委員

警察署の下水道接続工事費が1、100万円減額されているがどういう事情によるものか？

A 建設課長

当初は町民グラウンド旧技術棟の近くに接続するため、本管の工事も含んでいたが、消防署寄りの既設本管に接続できることになり、本館新設工事が不要になり、工事費が抑えられたもの。

議決結果一覧

議案番号	件名	議決月日	議決結果
報告 第6号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について		町長報告 (令和4年9月2日)
報告 第7号	専決処分した事項の報告及びその承認を求めることについて (令和4年度三戸町一般会計補正予算(第5号)) 【概要】7月20日の大雨で被災した道路等の公共土木施設の災害復旧費を専決した もの。	9月7日	原案承認 (賛成13・反対0)
報告 第8号	専決処分した事項の報告及びその承認を求めることについて (令和4年度三戸町一般会計補正予算(第6号)) 【概要】8月1日、3日の大雨で被災した道路等の公共土木施設の災害復旧費を専決 したもの。	9月7日	
議案 第50号	三戸町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】同一の子に係る育児休業と、いわゆる産後パパ育休の取得回数を緩和するもの。	9月7日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第51号	財産取得について 【概要】町消防団第18分団に配備する消防ポンプ車を1台購入するもの。	9月7日	
議案 第52号	三戸町教育委員会教育長の任命につき同意を求めることについて 【概要】10月31日に任期を迎える慶長隆光教育長を、引き続き任命するもの。	9月7日	原案同意 (賛成13・反対0)
議案 第53号	三戸町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて 【概要】9月30日で任期を満了する委員の後任に、工藤教雄氏を任命するもの。	9月7日	
議案 第54号	令和4年度三戸町一般会計補正予算(第7号) 【概要】歳入歳出ともに8,936万円を追加。主な歳入は国庫支出金や県支出金など。 歳出は子育て世帯臨時特別給付金事業費やマイナンバーカード普及促進事業費など。	9月7日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第55号	令和4年度三戸町国民健康保険直診判定三戸中央病院事業特別会計補正予算(第1号) 【概要】資本金収入および支出既決予算額ともに5,280万円を追加。内容は県補助金 により整備するX線透視診断装置等を購入するもの。	9月7日	
議案 第56~63号	令和3年度三戸町各会計歳入歳出決算認定について(※P2~P3参照)	9月9日	原案認定 (賛成13・反対0)
議案 第64号	三戸町監査委員の選任につき同意を求めることについて 【概要】10月1日で任期を迎える馬場行雄氏を引き続き選任するもの。	9月9日	原案同意 (賛成13・反対0)
議案 第65号	令和4年度三戸町一般会計補正予算(第8号) 【概要】8月3日および12日から13日にかけての大雨で被災した田畑等農林水産 業施設、道路等の公共土木施設の災害復旧費3,310万円を追加するもの。	9月9日	原案可決 (賛成13・反対0)

案議 議審

消防団第18分団へ 水槽付きポンプ車購入

主な議案と質疑

■議案第51号

財産取得について

水槽付きポンプ車となつた経緯は？

Q 藤原 文雄 議員

18分団（貝守）の消防ポンプ車取得にあたり、水槽付きとした理由は。

A 防災危機管理室長

18分団が管轄する貝守地区は山林が多い地区でもあり、初期消火に対応した車両が欲しいという分団の要望もあり、水槽付きの車両を購入することにしましたもの。

納期に遅れはないか？

Q 山田 将之 議員

車両の納期はいつに定めているか、また現在、一般の乗用車を購入した場合、納期までに大きな時間がかかることがあるようだが、消防車両は特殊車両でもあり、納期が遅れることはないか？

A 防災危機管理室長

納期は令和5年3月に設定しており、メーカー等からは3月中に納品できると聞いているため、年度内に納車される見込みである。

免許取得支援の考えは？

Q 柳澤 圭太 議員

購入するポンプ車はマニュアル車だが、今後、新規団員の中にはオートマ車限定免許の取得者も増えてくると思うが、免許取得への支援等は考えているか。

A 防災危機管理室長

現在、多くの新規免許取得者がオートマ限定免許を取得していることは認識している。また、道路交通法の改正により、普通免許で運転できる自動車の重量が、平成19年に5トン、平成29年に3.5トンと制限されているため、ポンプ車の運転ができない団員も出てくる。現在団員の免許の種類を調査しており、その調査を踏まえて、助成が必要であると判断されれば、予算措置を考える。

■議案第54号

令和4年度三戸町一般会計補正予算（第7号）

マイナンバーカードが普及しない原因は？

Q 山田 将之 議員

三戸町のマイナンバーカードの取得率は35.8%と、全国の45.9%、県内の40%を大きく下回っているが、普及が進まない原因は、また町独自の利活用方法を考えているか。

A 住民福祉課長

国がチラシ等により、マイナンバーを取得することで、本人確認がすぐできる、オンラインで確定申告ができる、保険証として利用できる、子育てや介護の手続きがスマホでできる、コンビニで公的証明書を取得できるなどのメリットを発信しているが、そのサービスを受ける年齢層の町民が少ないのではないかと、ということが1点。また、写真を撮りに行く時間がない、窓口に行く時間がないという方もいると聞いている。

町独自の利活用方法についてはまだ決定していない。

普及率の低さは高齢者の写真撮影が障害か？

Q 千葉 有子 議員

高齢者の普及率の低さは写真撮影が障害となっているのか、また今後5年10年と使用するなら、チラシに写真店での撮影を勧めるなどの工夫ができないか。

A 住民福祉課長

高齢者の中には、写真撮影が億劫であるという人もいますが、仕事でなかなか時間がないという人もいます。そういう人向けに出張窓口を開設する。

また、職員が写真撮影も行うが、技術に関しては写真店には及ばないので、その点は説明して、質の良い写真を使いたい人には写真店を勧めます。





映像配信

久慈 聡 議員



Q1 今後の三戸町の舵取りについて

三戸町は、多くの著名人を輩出し、地形を活かした農業や三戸城跡などの観光資源もある。しかし、町はSNS等の情報の波に埋没している状況に見えるが、町長の町の舵取りについて4点質問します。

- ① 地域商社サンノワの事業停止後、町は広く意見を聞き、方向性を探るとしたが、地域商社に限らず、町のネームバリューを上げる施策や考えはあるか。
- ② 三戸城跡の、国史跡指定後および今後の取り組みは、また、観光面のアプローチ、効果をどう捉えるか。
- ③ 「11ぴきのねこの町」の町長の考える政策の到達点と今後の課題は。

Q・熊原川沿いの整備で観光客を増やせないか？

A・多くの人に散策してもらったため検討課題とする。

④ 商工会および観光協会との連携による、新たな商業・観光振興策と、新たな産業・地域産品の開発について。

A 松尾町長

- ① 八戸市美術館の特別展タイアップ企画のバスツアーでは、6割の方がSNSでこれを知り、ねこに関するイベントの周知は、SNSが有効と改めて感じた。三戸城跡も、全国のお城ファンに向け、SNSを有効に活用し、2つの町の宝を核に町のネームバリューを上げる取組を進める。
- ② 春まつり期間中、町内の道路に約140本の「国史跡三戸城跡」ののぼりを設置し、誘導と周知を行った。また、町内外へのPRのため記念イベントを開催し、600人の来場者と史跡指定を祝った。今後も観光客への利便性を高め、インターネットによる情報発信に努める。
- ③ 町民や全国のファンへの心のなかに11ぴきのねこが住み続け、

新たなファンを増やす環境をつくり、後世に伝えることが到達点と考えており、今後は、ねこ町がつながる情報発信と、作品の原風景が残る三戸町の知名度向上に努めたい。

A 松尾町長

- ④ 商工会には、持続化支援金や、三戸応援商品券業務など、コロナ禍における急な依頼に、臨機応変に対応いただいている。観光協会とは、実行委員会を組織し、3年ぶりの秋まつりの開催のほか、ウェブと連動する観光パンフの企画などの取組も始めていただいている。
- ② 両者とも、相互の事業について協力・連携を図りながら進めることを確認している。

A 慶長教育長

② 今年度、城跡の知名度向上を目指した事業として、大型のぼりの城跡内への設置、史跡指定記念の特別御城印の限定販売、三戸城跡城歩きガイドによる城跡案内など実施したほか、7月に「三戸城の歴史」と題したテレビ番組を放映した。10月には南部家当主や旧盛岡藩士の関係者等を招き、記念講演会を開催予定で、11月は城歩きツアーなどで、三戸城跡の周知、活用を一層努める。

再質問①

最後に、最も重要な事業として法に基づく史跡三戸城跡保存・活用計画の令和5年の策定に向け取り組む。これは、史跡を適切に保存する計画である。

A 松尾町長

11ぴきのねこのまちづくりについて、絵本には生命力があり、子どもたちの宝物であるとの思いで、町とこぐま社の関係がスタートした。この、こぐま社の絵本への思いを守りながら、町のルールを明確にし、正確な情報発信をしていただきたいと考えているかどうか。

再質問②

まちづくり事業が丁寧かつ慎重に扱われ、絵本の世界観を大事にすべきである。町は11ぴきのねこに助けられているという認識のもと、今度はお返しをしていくような謙虚な姿勢で臨んでいく。

A 松尾町長

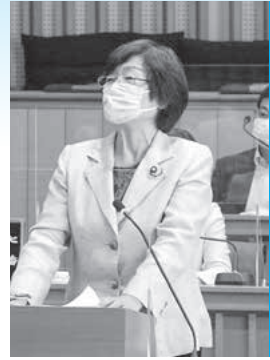
三戸町の魅力は、歩くことで季節ごとの美しさや恵まれた自然に出会えることであり、多くの方に散策してもらったために検討しなければならぬ課題と考えている。



川まつりの会場にもなった熊原川



千葉 有子 議員



Q1 新型コロナウイルス
感染症関連対応について

① 町の濃厚接触者への生活物資支援の受付が平日のみだが、土日祝日や、年末年始の長期閉庁時の対応は。

② 町長、副町長の感染予防対策は。

③ 不登校児童生徒は増えていないか。また、家庭環境の変化、子どもの負担への調査などしているか。

A 松尾町長

① 閉庁時の、宿直・日直員を通じた連絡体制を整えたため、改めて周知を行う。

② 国の基本的対処方針である3密の回避、マスク着用、手指衛生などの基本的取り組みと、毎日の検温で、体調を管理している。また、県外出張の際には、PCR・抗原検査

Q・閉庁時の濃厚接触者への物資支援は？
A・宿日直を通じた連絡体制を整えた。

を行い、感染の有無を確認している。

A 慶長教育長

③ 現在、感染に起因した不登校児童生徒はなく、家庭ごとのカードを作り、児童・家族の状況を可能な限り把握、整理し、対応している。今後も児童生徒の精神的な負担や学習の遅れが生じないよう支援を行う。

Q2 成人年齢引き下げへの対応について

① 来年の成人式の名称や日程、式典内容など、決定した事項はあるか。

② 18歳成人への、町独自のお祝いの考えはあるか。

③ 消費者トラブルについて学校での教育や保護者への注意喚起などしているか。

A 慶長教育長

① 令和5年1月8日、二十歳の方を対象に、「三戸町二十歳を祝う会」に名称を変更し、

町民体育館で開催予定。

② 現在、18歳成人の方へのお祝いは考えていない。

③ 学校教育では、学習指導要領に則り、小学校家庭科で売買契約の基礎、中学校技術・家庭科でクレジットなどの三者間契約、高等学校家庭科で契約の重要性、消費者保護の仕組みなど、段階に応じて教育を行っている。

また、保護者へは家庭教育学級により、消費者トラブルにつながる子どもを取り巻くネットトラブル等について、講演を行っている。

Q3 お試し暮らし住宅の活用と移住定住事業について

① お試し暮らし住宅の設置目的と利用実績、移住定住者実績および年間の維持管理費は。

② 5月に町長と職員が、移住定住について視察を行ったが、当町の施策とどう違ったか。参考になった事例や、今後の実績につながる計画

はあるか。

A 松尾町長

① 三戸町での暮らしを体験し、移住促進と交流人口の増加による町の活性化が目的であり、ことし8月末までの利用者数は34組67名で、1件が移住につながった。

維持管理費は年間平均約39万円である。

② 5月に先進的な取組実績のある徳島県美波町と鳥取県八頭町を視察した。

両町では、企業の進出が進むことで、事務所や飲食店等が出店し、空き家の利活用が進んでいるほか、地域コミュニケーションの強化、移住者の増加など、新たな風が入り込むことで、多くの波及効果が生まれている。

当町では、今年度東京でのマッチングセミナーに参加する予定であり、地方への機能的移転を検討する企業と交流の機会では、企業が何を求め、必要としているのか、ニーズ

と町が求めていることをすり合わせ、企業の誘致につなげていきたい。

Q4 サンノワ事業停止後の対応について

先の臨時会での私の質疑に町長は「今後の検証・総括が私に課せられた責任」と答弁し、マスコミへは「第三者による検証を行う」と発言したが、その進行状況と、マスコミに対する「今後の進め方について、議会と相談し、議会を通じて町民へ伝えたい」との発言の意図は。

A 松尾町長

現在町の顧問弁護士とサンノワの公認会計士等が、法律と経営の面から検証を行っており、事業停止後の方向性は、検証結果を踏まえ、町の考えがまとまりしだい議会に相談し、意見を聞いて決めたい。

議会を通じて町民へ伝えたいの発言は、方向性の決定しだい議員へ報告するので、問い合わせ等を寄せる町民へ伝えてほしいという意図である。



映像配信

栗谷川柳子 議員



Q1 災害に強い町づくりについて

災害に強い町づくりについて、第494回定例会で質問したが、新規項目も加え、以下について質問します。

- ① 避難場所の利用状況と課題
- ② 自主防災組織の新規設置の進展と課題
- ③ 職員の防災士養成についての検討結果
- ④ 町内の内水氾濫浸水の可能性
- ⑤ 熊原川河川改修工事の進行状況

A 松尾町長

① ジョイワークの利用状況は、8月3日の大雨による熊原川増水の際には17世帯19名、また8月13日には2世帯2名が避難している。避難対象者数に対する避難率が低いことが

Q・災害時避難場所に課題はあるか？

A・対象者数に対する避難率の低さが課題である。

課題であり、町は防災無線のほか、直接訪問やビラ配布などで対応している。

- ② 前回質問時から3団体増えて16団体となった。うち14団体が町内会、2団体が民間団体である。さらに、3団体が設立に向け準備中である。

高齢化で組織できない、災害時に機能するか不安、活動の内容が理解できていないなどの課題が聞かれる。

- ③ 現在有資格者は2名だが、年度内に職員が取得予定である。また、町内の有資格者を把握し、各自主防災組織の防災指導員や避難所運営等への協力を働きかけ、有資格者の利活用にも努める。
- ④ 内水氾濫浸水は、当町でも8月の大雨で、橋ノ下地区で側溝からの越水により、住宅地の道路が冠水する事案が発生しており、今後は内水氾濫による浸水被害を抑制するため、日ごろから排水施設の維持管理に努めていく。
- ⑤ 現在関根橋から上流左岸、

川原橋までの区間の工事を予定している。県ではこれまで住民説明会、地盤変動影響調査、支障樹木の伐採、電柱移転など、本工事に必要な手続が完了し、河川の非出水期となる今年10月ごろに工事発注の見込みと聞いている。

再質問①

土砂災害時の避難指示のレベル、タイミングはどう決めているか。

A 防災危機管理室長

気象台と県による土砂災害警戒情報を基に、予兆、降雨状況等を踏まえ、発生の可能性が高いと判断された場合に発令する。

再質問②

短時間の避難であっても、プライベートを守るような環境整備ができないか。

A 防災危機管理室長

ゆっくり休めるよう、ジョイワークには畳を用意しているほ

か、アップルドームには段ボールの間仕切りを用意しているの、ジョイワークにも同様に配備する。

Q2 事業停止中のサンノワの状況について

7月末付で株式会社サンノワが事業停止となったが、その後の経過および状況、町としての意向は。

A 松尾町長

現在町の顧問弁護士とサンノワの公認会計士等がこれまでの経営に関し、法律と経営の面から検証を行っている。

組織体制は、読売広告社の取締役と代表取締役が7月に退任し、8月以降は取締役の副町長1名のみである。

経理は、これまでの取引に係る売掛金の回収処理が終了するまで、前代表取締役が行う。

また、事業停止後の町の意向については、第三者による検証の結果を踏まえ、町の考えがまとまりしだい、議会に相談し、

意見を聞きながら進めたい。

再質問①

具体的に何を検証しているか、答えが返ってくるのか。

A まちづくり推進課長

弁護士にはサンノワ株式取得にあたり公金を使うことのは非と読売広告社撤退に至った責任の所在について、会計士には経営状況に関する意見の聞き取りを行っている。

今後町の考えを取りまとめ、議会に相談し、早ければ年度内に方向性を決めたい。

再質問②

サンノワが機能すれば、農家は潤いを取り戻し、所得が向上するという、立ち上げた原点の魂はどこへ行ったのか。

A 松尾町長

リングを中心とした果樹などの産品について三戸の魅力発信し、それを農家の所得や経済の発展、地域の振興につなげた思いは変わっていない。



小笠原君男 議員



Q1 「地域校」としての三戸高校への支援と生徒確保対策について

県の高校再編計画により、三戸高校は「地域校」として存続したが、本年度も定員を割り、次年以降も定員割れの状態が続けば、再度閉校の危機に陥る。郡内唯一の普通高校となった三戸高校を、地域一丸となって応援するため、生徒確保に本腰を入れる必要があることから、以下について質問します。

- ① 「地域校」の役割と目的
- ② 出身市町村別の生徒数の割合
- ③ これまでの三戸高校・三戸高校生徒への支援策と、三戸高校に対する近隣町村の支援はあるか。
- ④ 「全国募集」の方法と現況は。

Q. 高3生から三高支援の要望を聞くことは可能か？
A. 不可能ではない。学校側にも伝える。

A 慶長教育長

① 県の規定では、地域校については、1学年4クラスの学校規模の標準を満たさない高校のうち、募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生ずることとなる高校を、地域校として配置し、通学困難地域の抑制が地域校の役割と目的となっている。

② 出身市町村別の生徒数の割合は、全校生徒88名中、三戸町が34名で39%、田子町が28名で32%、南部町が21名で24%、二戸市が3名で3%、新郷村が1名で1%、五戸町が1名で1%である。

③ 町の三戸高校への支援策は、平成30年度の資格取得費へ補助を開始し、昨年度から補助メニューを4つに拡大し、実施している。昨年度の実績は、1つ目の資格取得については、全校生徒114名に対し、延べ277名が受験し、その検定料全額を補助。2つ目の通学費支援は、町

外から通学する19名に対し、通学費の2分の1を補助。

3つ目の進路達成支援として実施している学習動画配信サービス利用料補助については、1、2年生66名へ補助。

4つ目の部活動支援は、放送部が和歌山県での全国大会に出場した際の旅費を補助した。

近隣町村の支援等は、三戸高校活性化策検討のため設置された青森県立三戸高等学校活性化協議会に、田子町、南部町、新郷村の関係者にも委員となつてもらい、協議を進めている。

財政的な支援については、三戸町が行うが、その他の支援は、近隣町村と連携、協力して取り組む。

④ 全国募集の方法と現況は、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが行う都市部の中学生が地方の高校へ国内留学する「地域みらい留学」へ参加しているほか、オンラインによる合同説明会や、

い時間に、コミュニティバスが三戸高校前を経由するなどの支援は検討できないか。

A 教育委員会事務局長

制服やジャージの支給は他校でも実施されており、保護者にとって効果的と思われるので参考にした。バス、タクシーについては、多額の費用が見込まれるため、経路、経費等についてまず考えてみなければならぬ。

再質問①

次に入学してくる新入生のために、卒業する高校3年生から、こういう支援が欲しいなどの意見を聞くことができればと思うが、可能か。

A 教育委員会事務局長

決して不可能ではないと思うので、学校側にも伝えて考えた。

再質問②

資格取得支援もよいが、例えばジャージの支給などの物品支援、また朝や部活道終了後の遅



地域校となった三戸高校



柳 栗 圭太 議員



Q1 三戸地域における福祉サービスについて

(1) 三戸地域包括支援センターについて。

① 介護保険申請または、受給者の月別・長期目標達成のため、介護者・成年後見事務選任者との意思確認には、自宅で生活介助や介護を担う家族の存在が不可欠であるが、家庭裁判所による成年後見人の選任により、家族や生活介助者とのモチベーションに差があるとの見方もある。当町では、介護提供に対する何らかの情報発信は行っているか。

② 今後、成年後見制度を検討する家族に対して、市民後見人などの土業者によらない後見事務制度の現状は。

Q・認知症カフェの開催回数を増やせないか？
A・介護事業所のカフェは見通しが立たないが、再開に向け連携を図る。

A 松尾町長

① 町では、判断能力が不十分で、身寄りがなく後見開始の申立てができない場合に、町長が代わって申立てを行い、制度利用の際の費用負担が困難な方へは成年後見制度利用支援事業により、これまで7名が利用した。支援事業や成年後見制度に関しては、ポスターの掲示や医療、介護、福祉サービスに関する冊子への掲載、配布などにより、情報発信している。

また、ことし4月から、八戸圏域成年後見センターで、広報、啓発や相談支援、担い手の養成および活動支援等の業務を行っている。

② 成年後見人は家庭裁判所により専門職や親族、市民後見人などから選任され、このうち、一般市民が一定の研修を受け、後見活動を行える市民後見人は、現在当町では3名いる。現在活動実績はないが、高齢化の進行などを背景

に、今後ニーズが高まると考えられるため、市民後見人の養成、支援に努める。

(2) 認知症カフェの開催頻度増と予算の増額について。

認知症カフェは、認知症のあるなしに関わらず、症状に理解を深め、認知症の方やその家族の孤立を防ぎ、さらには情報弱者の救済も目的としているが、町では認知症カフェの開催日数の増加、運営資金の支援の予定はあるか。

A 松尾町長

認知症カフェの開催頻度については、新型コロナウイルスの終息の兆しが見えないことなどから、介護事業所の運営によるカフェは再開の見通しが立たないが、終息後の再開に向け、引き続き関係機関と連携を図っていく。また、認知症カフェへの助成については、事業者の負担軽減を図るため、例年予算措置しており、再開時に活用いただくよう案内している。

(3) 認知症や障害がある方のショートステイについて。

介護保険を申請していない方や、障がいでの居宅生活での自立が難しい方の家族介助の提供者が、冠婚葬祭や仕事の都合、新型コロナウイルスなどにより自宅介護・介助ができない場合の、ショートステイを受け入れていている施設や団体はあるか。

A 松尾町長

利用者の費用負担の低減を考慮し、可能な限り介護申請を促し、認定を受けていただきサービス利用につなげている。

三戸町において、ショートステイ等で入所できる介護施設は8施設あり、いずれの施設も、制度にのっとり、介護認定を受けた方を対象にサービスが提供されている。

再質問①

成年後見制度の窓口は健康推進課か、それとも町内会や民生委員を通じてか。

A 健康推進課長

64歳までは住民福祉課、65歳以上は健康推進課が窓口。相談は民生委員や町内会、サービス事業者等誰からでも受けている。

再質問②

市民後見人はどのような人が選任されるのか。

A 健康推進課長

八戸圏域で開催される養成研修を終了し、登録に必要な書類を提出し、面接を行い、町の名簿に登録された人。

再質問③

認知症カフェには、認知症への理解、町民の憩いの場、相談の場といった趣旨があると思うが、どのような取り組みが必要と考えるか。

A 健康推進課長

新型コロナウイルスにより2年半休止したが、その間にも情報紙「オレンジカフェ通信」を計8回発行し、回覧のほか各施設等に設置した。また、若年層向けに「認知症サポーター養成講座」を開催し、小学生から一般の方まで参加していただいた。



藤原 文雄 議員



Q1 町の歴史文化財等の整備状況について

三戸城跡が国指定史跡になり、町民の一人として大変うれしく感じるとともに、これまで以上に町民が歴史・文化に触れ、それらを活用したまちづくりを進めるべきと考えている。三戸城跡に限らず、町には多くの文化財があると思うが、それらの管理、整備状況について4点質問します。

- ① 歴史民俗資料館の運営状況
 - ② 発掘調査出土品の管理状況
 - ③ 統廃合された小中学校等の資料管理状況
 - ④ 個人所有の文化財の管理状況
- A 慶長教育長
- ① 三戸町立歴史民俗資料館は、昭和42年開館の温故館、46年開館の郷土館、51年開館の資

Q. 発掘調査出土品の管理状況は？

A. コンテナ200箱分を公民館等で保管・整理。

料館の3つで構成する展示収蔵施設である。温故館は55年目を迎え、青森県内の博物館等の中で最も長い歴史を持ち、これまで、町内の自然、文化、歴史資料の収集と展示を行ってきた。

調査主体の青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。重要な出土遺物は、資料館をはじめとした公共施設の一角において常設展示し、一般に公開している。

展示品は、温故館は刀やよろい、古文書など、江戸時代の武家に関するものを中心に、郷土館は、農業、林業、漁業など、近代の地元民具を中心に、資料館は、三戸城跡の国史跡に指定を受け、三戸城の歴史を中心に展示している。収蔵資料は年々増加し、資料館の収蔵庫だけでは足りず、一部は公民館やアップルドームで保管整理している。

③ 行政文書は文書管理規程に基づき永年、5年、1年など、保存期間が定められており、その中でも、三戸町の教育及び学校の歴史上で重要な記録資料となる学校沿革誌、周年行事・記念行事関係書類等は永年保存とし、廃校の際も統合先へ確実に移管するよう適切に保存管理している。また、文書に該当しない資料や学校への寄贈品などは、引継ぎの重要度、保管の物理的スペース等を勘案し、できる限り統合先へ移管している。

② これまで町が発掘調査した遺跡の出土品は、コンテナで約200箱、うち約150箱は公民館、残りは資料館やアップルドームなどで保管している。また、平成3年度から6年度の県道新設工事に伴い実施された、泉山遺跡発掘調査の出土遺物約300箱は、

④ 現在町内の指定文化財は44件あり、国指定が2件、国登録が5件、県指定が14件、町指定が23件である。このうち個人や団体が所有、管理するものは39件で、これらは、当

町の歴史を知る上で貴重な遺産であり、次代へ継承するため適切に保存する必要がある。そのため、毎年青森県と連携して文化財パトロールを行い、定期的に文化財の状況を確認するほか、管理における改善点等について指導、助言に努めている。

町が発掘調査した遺跡の出土品は、コンテナで約200箱、うち約150箱は公民館、残りは資料館やアップルドームなどで保管している。また、平成3年度から6年度の県道新設工事に伴い実施された、泉山遺跡発掘調査の出土遺物約300箱は、

町が発掘調査した遺跡の出土品は、コンテナで約200箱、うち約150箱は公民館、残りは資料館やアップルドームなどで保管している。また、平成3年度から6年度の県道新設工事に伴い実施された、泉山遺跡発掘調査の出土遺物約300箱は、

再質問①

温故館の壁紙や、展示ケース内のクロスなど、リニューアルしてもよいのではないかと。

A 史跡対策室長

老朽化が見られるので、考えなければならぬ。

再質問②

増えていく文化財を、違う建物で広く見てもらう考えはないか。

A 史跡対策室長

文化財の増加に伴う、新しい建物の建設予定はないが、出土品や古い道具を職員が学校へ持

参しての、社会科の出前授業の実施など、眠れる文化財を有効活用している。



建設から50年以上経過する温故館

再質問③

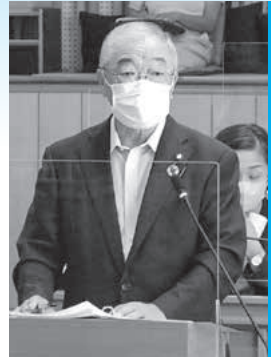
昭和54年に「三戸町通史」、平成9年に「全3巻の三戸町史」、令和3年に「三戸城跡発掘調査総括報告書」が刊行されているが、歴史資料全体を総括した資料等を出版する用意はあるか。

A 史跡対策室長

発刊の予定は今のところないが、新しい事実の解明、価値のある文化財の発見等あれば、考える可能性はある。



竹原 義人 議員



Q1 町の議会（議員）
軽視と思われる対応について

議員の一般質問や議案への質疑・討論は、同時に住民の疑問・意見である。議会で「施策の最終決定」と「行財政運営の批判と監視」を達成できるよう努力することが議員の職務であることから、以下について質問します。

① 議会での対応が適切でない、不透明だとの声から、令和2年11月に「議員に対する適切な対応を求める要望書」を提出し、令和4年7月には「議会での透明性のある対応を求める決議」を決議したが、町長の見解は。
② 6月定例会の一般質問で、ある議員が、町長が「出張後3日間自主隔離をした」と答弁

Q. サンノワの方向性なぜ6月で説明できなかつたか？
A. 計画の大きな変更があつたが伝え方が足りなかつた。

したが、その間に町内での会食に参加しており、矛盾していると指摘したのち、議員の家族に抗議の電話をしたのはなぜか。

③ サンノワ設立時、読売広告社との合弁契約書はどのような経緯で取り交わされ、また、町は契約に当たり、内容等を誰がどこで確認、精査を行ったのか。

A 松尾町長

① 議会から提出された要望書と決議については、これを真摯に受け止め、尊重し、かつ誠実に対応するべきものである。町勢の発展のためには、行政、議会、そして町民が歩み寄り、一丸となってお互いを尊重し、協力し合い、信頼関係を構築することが何よりも大事である。
町長として、まちの未来を託された責務を果たし、町民からの期待に応えられるよう、今後とも、皆さまからの率直なご意見に耳を傾けていく。

② 私の説明が至らず、誤解を招き、申し訳なく思っている。「自主隔離」という表現は、家族の勤務先に行動・接触制限があつたため、県外からの帰庁の際、家族と別に過ごしたことを指し、会食への参加は帰庁から2日過ぎ、体調変化もなく、県内の感染状況も落ち着いていたことなどから慎重に判断し参加したものである。

議会後の電話の件についても、私の議会中の説明不足による誤解についての、私的な行動であり、大変反省しており、議会や関係する皆さまへ陳謝する。

③ 平成30年12月3日に地域商社設立運営支援業務の共同出資候補者をプロポーザル方式で選定するためのプロポーザル選定委員会により、読売広告社が候補者に特定された。これを受け、12月14日、プロポーザル審査会において、読売広告社が提案した企画提案の協議が行われ、報告を受

けた際、私は、相手の言いなりではなく、町側の意見を持って協議するよう指示した。12月26日、職員3名を読売広告社本社へ出張させ、同社担当者との契約内容の協議、確認を行い、その結果を踏まえ、12月28日付けで合弁契約を締結した。

再質問①

サンノワの方向性について、6月議会ですっかりと説明すれば、7月の臨時会での補正は必要なかつたと思うが、町長には事情があつたのか。

A 松尾町長

町がサンノワから受けた報告を、議会にそのまま説明し、それに基つて判断している。そこには何も介在していない。しかし、計画が大きく変わり、疑念をもたれたのであれば、伝え方が足りなかつたと反省している。

再質問②

出張後、公務もできるよう

3日間お試し暮らしし住宅に泊まったというが、お試し暮らし住宅には利用に関する要綱があるはずではないか。

A 松尾町長

出張が移住定住に関するものであつたこともあり、実際に利用して利便性を体験したい思いがあつた。今後は規定等から逸脱しないよう対応する。

再質問③

共同出資者のプロポーザル実施前に、町長らでつくる地方創生推進委員会は地域商社設立プロジェクト会議の意見を聞くとしていたが、プロジェクト会議は町側へ、3年間の補助事業終了に向けて、故意に事業を停滞させ、撤退するような悪質事業者を排除すること、地域商社の利益を最優先し、農家を疲弊させる事業運営とならないよう募集要項に明記することを意見し、いなかつたか。

A まちづくり推進課長

第3回の会議の内容を、平成30年10月3日の全員協議会でも報告しており、そのとおりである。

議会活動レポート



Facebook
でも発信中!!

総務文教常任委員会

千葉 有子・山田 将之
小笠原君男・越後 貞男
佐々木和志

【調査事項】

町有財産の管理状況について

7月7日、町が所有する不動産等の財産の管理状況について、お試し暮らし住宅、相撲場、版画工房の3か所がどのように使われているのか、現地を訪問して調査しました。



お試し暮らし住宅内部

【主な調査結果・意見等】

①お試し暮らし住宅

今後希望者がいつでも使えるよう維持管理に努めるほか、お試し暮らし住宅が移住・定住につながるよう活用してほしい。

②相撲場

競技団体と連携しながら、子ども競技人口の増加に努めてほしい。

③版画工房

利用者の伸び悩みや固定化が見られることから、将来を見据えた活用方法について検討してほしい。



版画工房の内部

民生商工常任委員会

栗谷川柳子・藤原 文雄
柳 隼 圭太・乗上 健夫
竹原 義人

【調査事項】

町内の福祉関係機関等の運営状況について

8月30日、町内で活動する福祉関係機関の運営状況を調査するため、



民生委員児童委員の役員の皆さんと社会福祉協議会の関係者から、運営の現状や困っていること等についてお話を伺いました。

【主な調査結果・意見等】

①民生委員児童委員

欠員が発生するなど、なり手不足が著しい。民生委員児童委員の仕事自体、住民の多くは分からないと思われるので、広報等でその役割を周知し、理解を得ていく必要がある。

また、社会福祉協議会や役場福祉担当課のほか、町内の福祉関係団体との情報共有がなされており、活動のサポートとなっている。

②三戸町社会福祉協議会

介護に係る人員不足は全国的な問題であるが、当町の社協では離職者が少ないため、事業を継続できている。今後も人員不足とならないよう粘り強く求人していただきたい。

財政運営については、当委員会にて今後も継続して調査を行い、必要に応じ対応を検討する。

建設農林常任委員会

久慈 聡・番屋 博光
和田 誠・澤田 道憲

【調査事項】

農作物の生育状況について

6月27日、町内の果樹や野菜の生育状況を調査したほか、地域おこし協力

隊員が栽培しているホップの園地に伺い、活動状況や生育状況について伺いました。

【主な調査結果・意見等】

①農作物の生育状況

リンゴは園地によって不受精花の発生が見られるものの、果実肥大は平年を上回り順調に生育している。サクランボは着果量の確保はできたものの、6月上旬の低温と雨により実が割れる裂果被害が見られ、販売数量への影響が懸念される。トマトは順調に生育し、良好である。

②ホップ

現在数種類の品種の試験栽培を試みており、生育状況は良好であった。三戸町産ホップの復活に向けた今後の取り組みに期待。



新聞から学ぶ 文章術



東奥日報

ビジネスセミナー

8月10日、全議員で構成する親睦団体である三戸町議会議員会が、東奥日報社販売局長でNIE・NIB推進部の三浦博史部長、榊寿子次長を講師に迎え、研修会を開催し、議員13人が参加しました。

研修会では榊次長が、見出しの大きさや、紙面の上下左右どこに配置されるかで記事の価値がわかること、手早く読むには右上から読むと主要ニュースを外さないなどといった新聞の読み方を、その日の新聞を手に



しながら解説しました。

続いて三浦局長が、自身の三戸支局長時代のエピソードも交えながら、新聞記者として相手にものごとを伝えるには、「何を」「どのように」「わかりやすく」「共感してもらえらる」かが大切であると、文章作成のポイントを説明しました。

議員研修会



8月10日、議員主催の研修会を開催しました。6月の三戸中央病院会

計についての研修会に続き今回は、町の行政運営における収入となる、町税や地方交付税について、また現在の町の財政状況について、税務課および総務課の職員を講師に迎えて実施しました。

視察レポート

総務文教・民生商工 常任委員会合同視察

10月6日、総務文教常任委員会と民生商工常任委員会が合同で、岩手県紫波町を訪問し、JR紫波中央駅前都市整備事業「オガールプロジェクト」エリアを視察しました。

このエリアは、駅前の広大な町有地を、民間のアイデアを用いて整備することにより、町の中心部がにぎわい、町全体に経済活動が普及する仕組みをつくり、持続的に発展する町を目指すために、平成21年に同町が策定した「公民連携基本計画」に基づいて複数の民間企業等が参画し、PPP/PMI手法を導入した開発が続けられています。

今回は、プロジェクト当初に設立され、官民連携のためのエージェントの役割を担う「オガール紫波株式会社」の資料により、これまでの流れ、背景、手順、組織体制、もたらした効果・実績、課題について研修を受けました。

参加した委員らは、公民連携やPPP/PMI手法の導入といった理想的なまちづくりに伴う課題や難しさについて、積極的に質問していました。

その後、実際にエリア内（※1）

を見学しました。

※1住宅地、役場庁舎、情報交流館(図書館と交流館)と子育て応援センターの公共施設、地域内熱供給施設、民設民営保育園、人材教育を目的としたスポーツ施設のほか、産直、宿泊施設、飲食店、歯科・眼科、学習塾などの民間施設で構成される官民複合施設など。

(栗谷川柳子)



視察レポート

三戸町活性化対策特別委員会

三戸町活性化対策特別委員会は、国指定史跡三戸城跡城山公園の活性化を調査研究のテーマのひとつにしていることから、10月13日・14日、

山形県山形市「国指定史跡山形城跡霞城公園」と宮城県多賀城市「特別史跡多賀城跡」を視察しました。

山形城跡「霞城公園」の視察では、山形市担当課から、歴史、復原整備計画、公園整備計画、実績、財源、市民ニーズの取り扱いなどについて、座学や現場での見学を行いました。

同市は、昭和54年、市制施行90周年記念事業として公園の整備を開始。昭和59年には公園整備計画を策定。昭和61年に国の史跡に指定。現在は、令和15年の事業完了を目標に本丸堀土塁の復原や広場整備を行っています。

公園の北側エリアは、公園に必要と考える整備や利用についてアンケート調査を実施し、市民ニーズに基づいた検討を行った上で、具体的な整備の方向性となる基本設計を平成30年度に策定したとのこと。大変な時間と労力を費やして、市民のニーズを取り込み、森の広場、本丸御殿広場(本丸御殿跡)、歴史の広

場という形に整備できたことがうかがえます。

昭和の開発が施されたのち、近年国指定史跡となったこと、歴史的価値とレジャー的価値が混在すること、市民の利活用のニーズを妨げずに整備する難しさなど、同じような課題がある当町にとって大変参考になる整備事業だと思いました。

ホームページに今後の主な整備計画の詳細を掲載していることは、市民と情報を共有して、理解と応援を得ながら進めていくために大事であり、さらに専門員が集中して整備にあたる環境づくりも今後必要だと思いました。

まちなかも、建物の壁を活用して城跡の風景やみどころを紹介していたり、古い建造物の再活用や、かつての堀を復元した商業スペースがあったりと、歴史を市内経済に活かす取り組みが目立ち、当町も、史跡の整備と同時に取り組まねばと強く思いました。

翌14日、特別史跡多賀城跡の視察では、ベテランボランティアガイドの方から約2時間かけて案内していただきました。政庁跡、重要文化財の多賀城碑、門跡などの保存や表現方法の工

ピソードを交えながら、興味関心をかき立てるようなテクニクも大変参考になりました。

日ごろ、ガイドさん自身が調査研究を深めている努力が感じ取れ、当町でも今後ガイド育成が必要になると思います。実際には忠実ながらも、おもしろいエピソードも添えられるような名物ガイドが誕生することを期待したいと思います。

(栗谷川柳子)



さんのへ秋まつり2022

「袴(かみしも)行列が復活！」

10月2日、3年ぶりとなるさんのへ秋まつりが期間を1日に短縮して開催されました。元木平、久川、六日町、城南、八日町、上同心町の6町内会が山車の運行を行ったほか、袴行列も復活し、議会から柳澤議員、越後議員、栗谷川議員、藤原議員、番屋議員、久慈議員、澤田議員が山車組を先導し、目抜き通りを練り歩きました。



袴行列の参加者



同心町から元木平まで練り歩きました



拍手で見送る議員



元木平地区での、互いを賛えて労をねぎらう「けんか太鼓」。来年の再会を誓いました。

第507回 三戸町議会定例会(12月議会)の予定

12月 8日(木)	開会、町長による議案の提案理由の説明
12月 9日(金)	議案熟考のため休会
12月12日(月)	一般質問
12月13日(火)	一般質問(予備日)、議案審議・採決、閉会

※新型コロナウイルス感染症予防のため、傍聴者数の制限を行っています。ご了承ください。

編集後記

10月2日、さまざまな制限の中で不安と期待を抱きながら、3年ぶりにさんのへ秋まつりが行われました。

予想を超えるまつり参加者や、沿道を埋め尽くす見物客の皆さんが、町に活気とにぎわいを見せてくれたほか、議員も参加した「袴(かみしも)行列」もまつりを盛り上げるために一役担いました。

そして、何よりも子どもたちの「うれしかった、楽しかった」の声に元気をもらい、老若男女に笑顔の花が咲きました。あらためて「地域のまつり」の大切さを実感し「来年こそいつもどおりの秋まつりを」と願うばかりです。

(千葉有子)

三戸町議会広報編集委員会
委員長 山田将之
副委員長 栗谷川柳子
委員 藤原文雄
千葉有子
久慈和志
佐々木志